

北梅道札履込 曲智科大學内  
八田三郎先生



九月二十号

兵庫兵武庫郡精道村  
芦屋町南新田にて。

大石春就



謹啓

先生にはその後大變りもなく  
大慶のまゝに存じ奉りま  
すを儀朽履卒業後北  
海道へ山奥に入る此山居  
りしところ、物づつ情  
づつめ中止の已むなきにま  
る後流浪の舟の處今固  
古物る島居喜阿氏の  
たより、新聞に於てすゝこと  
ました勝舟様にも此目に  
かり又勝舟鼎一様に  
お目にかり遙に遠く  
是をのこを思ひ起す大次

中へたれも御公之儀

ました勝舟様への目にも  
かり又勝舟鼎一様にも  
お目にかかり遠く遠く  
足をものこを思ひ起す次  
中下す尤も市合嬢は信  
婚の事は以ておよろしく聞紙  
上はし承知を下さり所り  
一丸のむすが今後市合嬢  
とも市合嬢に所務を上げ  
こころなりここに先生にも  
一言申換抄申上げた次第  
下す

坂本

九月二十日

大石春我

八田先生